

洋画

「犬の顔29」

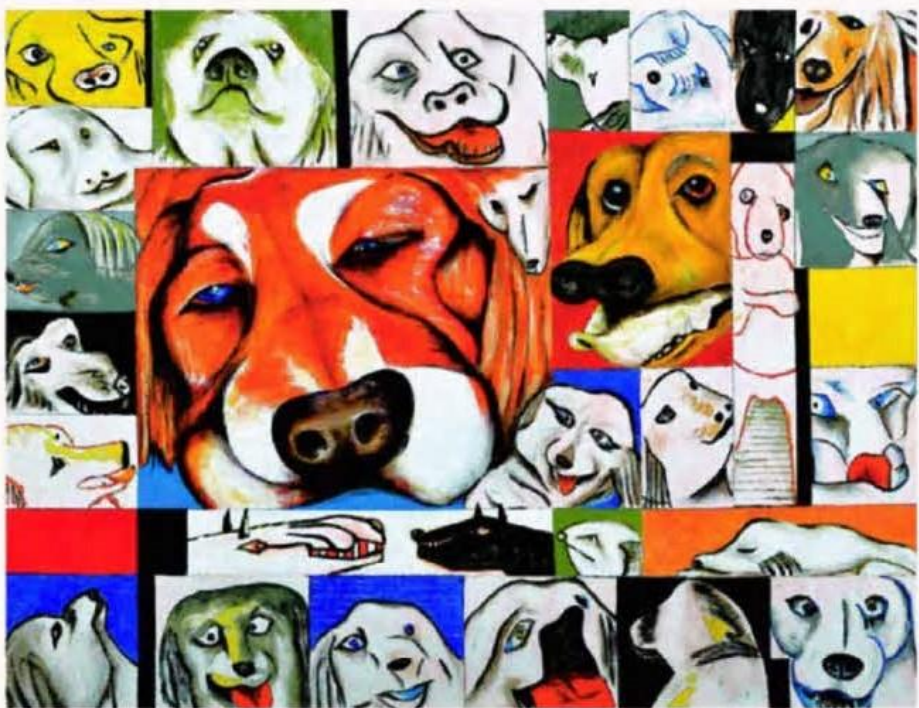
中村 梅子(日高村)



犬、犬、犬。目がく

りつとかわいい顔、寝顔、怒った顔、何ともシニールな顔……。その数、題名通り29頭。

「犬の顔を通じて犬の心を絵画的に表現してみようと思って」と話す作者は、やはり愛犬家。これまで雌と雄のゴールデンレトリバーを1頭ずつ迎えた。



1回指導を受ける洋画家の平田慎一さんの助言で、色を足したり、黒い線を所々に引いたりして画面を締めた。

「このご時世、見て楽しんでもらえる絵に」とカラフルに制作。「ユーモラスな愛情表現で柔らかい気持ちになった」と審査員の心をつかんだ。

10年間共に過ごし、本作にも描いた雄のりょうま君が8月に他界して寂しい日々だったが、「りょうま君の最後のプレゼント」と初特選を喜ぶ。

愛犬からの贈り物

画歴は約30年で、この5、6年の県展は「漫画チック」な犬の作品を出し続けていた。昔は写実的に描きよったけど、私は大きっぱで結局こういう感じになった」と笑う。

雌の愛犬が身重だった頃の表情をメインに配置し、周りの顔の並びなどを試行錯誤。月

(徳澄裕子)

なかむら・うめこ 1944年須崎市生まれ。
褒状1回、初特選。